

# EMERGENCY WATCH!

## 疾患頻度

1. 急性上気道炎・感冒 713人
2. インフルエンザ 424人  
(確定：A型195人、B型130人)
3. 感染性胃腸炎 402人
4. 咽頭炎・扁桃炎・喉頭炎 231人
5. 気管支炎・肺炎 143人

No.85  
Jan.2018

## 神戸こども初期急病センター

# 2017年12月受診者数 2833人

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。今年の年末年始は北日本では寒波が厳しかったですが、いかがお過ごしでしょうか。12月から腸炎やインフルエンザ患者が増え始めて、まだ今後も流行が考えられます。今回は小児科学会が発信している2017/2018シーズンのインフルエンザ治療指針を中心にインフルエンザについてとりあげたいと思います。

### <インフルエンザの概要>

インフルエンザウイルスにはA,B,Cの3つの型がありますが、流行で問題となるのはA,B型です。いずれの型のインフルエンザも1~3日の潜伏期を経て、悪寒を伴う高熱、全身倦怠感を伴って急激に発症します。鼻汁、咳、咽頭痛などの呼吸器症状や、吐き気、嘔吐、下痢などの消化器症状を伴うことも多く、頭痛、関節痛も現れます。

### <治療対象>

幼児や基礎疾患がありインフルエンザの重症化リスクが高い人や呼吸器症状が強い人には推奨されますが、多くは自然軽快する疾患でもあり、抗インフルエンザ薬の投与は必須ではないとも記載されています。

### <抗インフルエンザ薬のまとめ>

	タミフル	リレンザ	イナビル	ラピアクタ
新生児・乳児(1歳未満)	推奨*	推奨されない		左記3剤の使用が困難な場合に考慮
乳児(1歳~4歳)	推奨	吸入困難と考える		
小児(5歳~9歳)	推奨	吸入可能と判断された場合に限る		
10歳以上	原則として使用を差し控える	推奨		
呼吸器症状が強い、呼吸器疾患のある場合	推奨	要注意**		

\* タミフルの投与は生後2週以降の新生児が対象である。体重2500g未満の児および生後2週間未満の児は使用経験が得られていない為、副作用の出現に注意が必要である。

\*\* リレンザ、イナビルは乳製品に対して過敏症の既往歴のある患者に投与した際にアナフィラキシー出現の報告がある。

### <抗インフルエンザの有効性>

- ・有熱期間の短縮、
- ・早期投与による重症化予防効果が期待されます。

以上、簡単にまとめましたがインフルエンザと共に腸炎なども流行しやすい冬季には飛沫感染対策としてのマスクの着用、接触感染対策としての手洗いなどの手指衛生を行うことがとても重要です。手洗い、うがい、マスクの着用でこの冬を乗り切りましょう。